

署名用電子証明書・利用者証明用電子証明書 照会書兼回答書

タイトルのような長い名前を書いた書類が届いた。

説明に従って、昨年末に代理人としてマイナンバーカードの更新手続きをした。

代理申請の場合は、本人が、ナンバー、暗証番号、代理人の住所氏名を記入し捺印し、所定の封筒に入れのり付けし、それを代理人が持参することになっている。

すべて、代理人の私が記入した。そのことを、記入訂正もあつたので、窓口で確認してもらってからハンコを押そうと思い、窓口へ提出。説明しようとする、さえぎって、封じてのり付けして渡せという。あれこれやり取りしている内にその係の女性がのり付けして、とにかく担当にまわすので待て、という。

しばらくして別の窓口と呼ばれ、発行担当らしい女性が、印を押してないのでハンコを渡せという。こちらで押します、と告げると、暗証番号が書いてあるので渡せない、という返事。

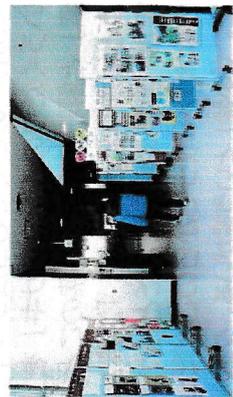
封をせずに窓口へ提出したのだから、渡した代理人の私が中身、つまり暗証番号を見ていると考えるのが理屈だろうし、ハンコなんてやたらに他人に渡すものではないと思うけどなあ、などと一瞬いや二瞬考えた

が、ハンコを渡して、公布した(受け取った)旨の確認書というのにサインして、はい終わり。

考えるに、担当者としては、封をしたものを受け取り、記入漏れが無ければそれでよし、というきまりを守ろうとしたというところだろう。すでにマイナンバーカードそのものが交付されているので、更新について は代理人が全て作成したということより、書類をきまり通り受け取り、記入もれがないか確認することが上から求められているのだろう。悪意の代理人だったらどうなるのだろうか。

簡単に手続きが済んでよかった反面、個人情報漏えいを厳しく防ごうとしての手順は理解できるが、なんかちよつとなあ、その気になれば穴だらけかもしれないなあ、と考えた。

この長い名前の書類も、コロナ禍関連の「特別定額給付金振込通知」も、わかりやすく記入しやすく配慮されている、結構なことです。



船橋駅前総合窓口センター(船橋駅前FACEビル)の入口。ここで渡されるものと、本でないだけなものがあつた。2019/2/23。

凍えそうな時にそんなことができるだろうか。強い人にふんだくられただけじゃないのか、なんてひねくれて書いた。

ドイツとの戦いを描いたイギリスのドキュメンタリー風テレビ番組には、ナチスに囚われた教師が、教子が処刑されると知り、俺を代わりにしろ、と言ってその通りになったという話が紹介されていた。とても真似できない。教師をやめてよかつたあ。



命掛けます、という覚悟の全くない先生の授業風景。1977(昭和52)/4、図書館員N君撮影。高校新入生に対する図書館利用ガイダンス。教科を担当してはなかったため、他の先生の授業ももろに1クラスずつ行ったり、写真のように昼休み時間に、第1開校で数クラスまとめて行ったり。中学新入生には図書館の相棒Y先生がご自分の英語授業の時間に実施。

アンケート

タさんから頂いた資料の中の、男女別のある数字のところ、本筋と関係ないことを思い出した。ちよびつとは関係あるかな。

高校生の時と職員の時、図書館部として読書調査のアンケートを行った。当時は男子校だったが、男女

浜町から 風の便り 23
2021(令和3)/5/1.
船橋市浜町 辻 秀幸

「夜と霧」

人間を80年経験していると、進む道を変えたり変えられたりするほどではないけれども記憶に残る言葉が一つか二つかはある。

高校の時のE先生(社会科。中学1年のクラス担任をした時の学年主任)が高校の授業での話。

「人間不信におちいるとフランクルの『夜と霧』を読みます。そして人間はどうしてどうして捨てたものでないかと確認するのです。」

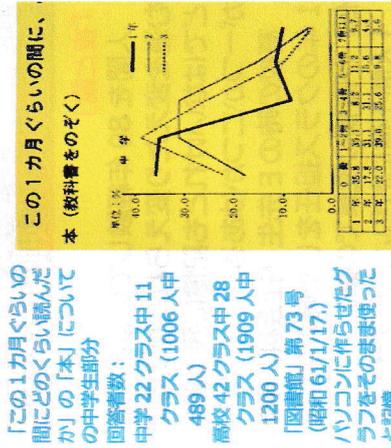
アウシュヴィッツから生還した人の書いた本です。ガス室が先か、餓死が先かという絶望の時にも、わずかな食料を分け合う人が居た、ということが書いてあります。

私なら、他人の様子を気にする前に、真っ先に狂い死にしように違いない。

文集「さくへきばあ」と武」に、真冬のポトマック川に不時着水したボーイング737旅客機の話を書いた。(第9号 昭和57年1月27日)

凍る川に垂らされた救助のロープを何人にも譲って己は沈んだ人が居た。ロープを垂らした救助員は、彼こそ英雄、紳士だったと泣いた、という。

答者数が随分少ないと思うことがあるけれど、統計学とやらなんやらで、確かめられているンでしよね。



共学の今なら、私は当然のこととして男女別にまとめるだろう。

ジェンダーというところが問題となっていて今、男女別に調べることに異議が出そうだが、どうだろう。

冒頭で触れた男女別の数字というのは、資料の筆者が、男女によって違う結果が出たのは何が原因か、と話をすすめたいために引用している。ということは、アンケート結果を男女別にまとめることはそれなりの意味があるのだろう。

という、よくわからないことは勝手にほっぽるとして、僕が思い出したのは、全員がアンケートに回答しているわけではないのに、学年の結果として発表してよいのだからかと、ある時思ったことなんです。その頃、いくつかのクラスを累計して発表したのか、回答分すべてをまとめてのを発表していたのか忘れただけで、どっちにしても学年全員分ではないわけ。それで、いくつかのクラスだけまとめたものと、回答全部まとめたものとを比較してみたわけ。

両方に差がないんですよ。統計学には全く無知なので、正しい見方かどうかかわからないけれど、明らかに違うという差はなかったんです。

結論として、一部の調査で全員・全体の傾向がつかめる、ということらしい、と知ったわけ。

新聞やテレビでの世論調査で、回

Ala Saga 氏の toothpick

情けは自分の為にするのかの段

「流れに掉さす」。夏目漱石の小説のアタマのこの言葉を、長いこと、流れに逆らう、と思いついていた。そう理解している人も多いようで、広辞苑には「時流にさからう意に誤用することがある」とある。このテの勘違いはいろいろあって、ときどき話題になる。

「情けは人の為ならず」もその例。調査によると、情けをかけられた人の為にならない、だから人に情けをかけるのはよくないことだ、と理解している人がかなり多いらしい。

お互いに意味を別々に理解していると、話しがとんちんかんになったり、誤解から仲たがいに至るかもしれない。

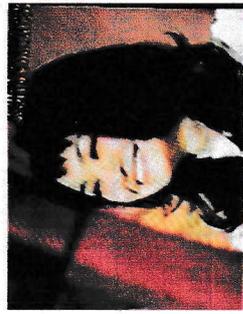
それはともかく、では、自分の徳にならなければ人様に情けをかけるのか、とちよつとひっかかる。

喧嘩沙汰にはならない例で、島倉千代子の唄だったと記憶するが、「あねさのこそでもコムラサキ」というくだりの「コムラサキ」を「小紫」と解釈して、薄い紫のことだろうとばかり思っていた。「濃紫」と書き、濃い紫色のことだとわかったのは大分年取ってからのことだった。(「小紫」という蝶がいる。タデハチヨウ科。オスは光棘の具合で紫色に光る) 昔の歌は結構難しい言葉が使われ

たこともあって、聞き間違え勘違いが面白おかしく披露されることがある。童謡や大衆歌曲に、難しい言葉を使うのはどうか、と思うが、逆に、知らなかった言葉に出会える、とも言える。

最近の流行り歌から例をあげたいが、たまたま聞いても、何言ってるのかわからないリズムとかメロディ一七かも快いどころか騒音に感じてすぐにチャンネルを変えてしまう。耳の機能が変調をきたしているせいかもしれない。

弘田三枝子はパンチがあつてよかったなあ、石川ひとみの「まちぶせ」はなぜかゾツときたなあ、ちあきなおみは歌もいいがお芝居がおもしろかったなあ、男では誰だろうな、マ、男はどうでもいいのか、なんぞとやっぱり、「昔はよかった」と思ってます。やっぱり年取ったせいだろう。



「まちぶせ」を、私の耳からのイメージとは違つて、元氣いっぱい明るく歌う石川ひとみ。歌だけ記憶にあって、顔はこのテレビで知った。この歌には「カルピスの味」の思い出がある。
2019/12/31、テレビ東京「大晦日恒例年忘れにっぽんの歌」録画面から